

医学系研究科大学院（修士課程）医科学専攻修士論文審査基準

医科学専攻における修士論文は、以下の各項目について、論文審査および口頭試問を行うことによって評価し、その結果を総合的に判断して合否を決定する。

1. 研究テーマの設定が適切であり、研究方法が妥当なものであるか。
2. 当該研究がその領域の理論的見地または実証的見地から見て、独自の価値を有するものとなっているか。
3. 論文の記述（序論、方法、結果、考察・将来展望など）が適切であり、結論に至る論理構成が明瞭で妥当であるか。
4. 結論に至る論理構成を支える図、表、文献の引用などが十分かつ適切であるか。
5. 当該研究領域について必要な知識を有し、問題を的確に把握して解明する能力を身につけているか。
6. 外国語文献読解など、研究に必要となる外国語能力が、十分なレベルに達しているか。

医学系研究科大学院（博士課程）生命医科学専攻博士学位論文審査基準

生命医科学専攻における博士学位論文は、以下の各項目について、論文審査および最終試験を行うことによって評価し、その結果を総合的に判断して可否を決定する。

1. 研究テーマの設定が適切であり、研究方法が妥当なものであるか。
2. 当該研究がその領域の理論的見地または実証的見地から見て、博士として独自の価値を有するものとなっているか。
3. 論文の記述（序論、方法、結果、考察・将来展望など）が適切であり、結論に至る論理構成が明瞭で妥当であるか。
4. 結論に至る論理構成を支える図、表、文献の引用などが十分かつ適切であるか。
5. 当該研究領域について博士として必要な専門的知識を有し、問題を的確に把握して解明する能力を身につけているか。
6. 外国語文献読解など、研究を遂行する上で必要となる外国語能力が、博士として十分なレベルに達しているか。

看護学専攻修士論文審査基準

① 修士論文審査基準

修士論文

評価項目		評価の視点
全 体	論理構成	- 研究目的，研究方法から結論に至るまで，首尾一貫した論理構成になっている。 - 研究テーマから考察に至るまで，文献が適切に使われている。
	独 創 性	- 論文内容が独創的で，新しい知見が論理的に示されている。 - 未発表の研究である。
	貢 献 性	- 看護実践の改善に貢献する内容である。 - 看護実践への貢献を述べている。
	将来展望	本研究から導き出せる今後の研究発展の方向性を示している。
	論文体裁	- 決められた形式に沿って書かれている（論文枚数，フォント，文字数，文献記載等）。 - 誤字，脱字，不適切な文章表現がない。
	倫 理 的 配 慮	- 研究目的・テーマに倫理的な問題がない。 - 研究方法，対象の選定，記述に倫理的配慮が十分払われている。 - 他者の知的所有権を侵害するような記述がない。 - 倫理的配慮に関する内容が適切に記述されている。 - 必要に応じて，本学の研究倫理審査委員会の承認を得たことが記載されている。
研 究 過 程	テ ー マ	研究テーマの表現が適切である（英語表記を含む）。
	研究目的	- 研究目的が明確である。 - 看護に対する意義が述べられている。 - 研究目的を導く問題現象の全体像が述べられており，その中で本研究の位置づけが示されている。 - 適切な文献レビューがなされ，そこから導き出された目的である。
	研究方法	- 研究の枠組み，方法論が十分検討され，適切に用いられている。 - 研究方法が明確かつ具体的に述べられている。 - エビデンス・レベルの高い研究方法である。 - 結論を導き出すに十分なデータ数である。
	結 果	- 研究目的に沿ったまとめ方がなされており，記述方法が適切である。 - 分かりやすい方法で結果を提示している（図・表）。
	考 察 と 結 論	- 得られた結果が適切に分析されており，結果の解釈に矛盾や飛躍がない。 - 得られた結果に基づき，研究目的に沿った論理展開ができています。 - 本研究の限界を認識し，限界と対処が述べられている。 - 結論が簡潔明瞭な表現で適切に記されている。
口頭試問		- 研究内容を分かりやすく説明できる。 - 質疑に的確に対応できる。

② 課題研究審査基準

課題研究

評価項目		評価の視点
全 体	貢 献 性	- 看護実践の改善に貢献する内容である。 - 看護実践への貢献を述べている。
	論理構成	- 研究目的，研究方法から結論に至るまで，首尾一貫した論理構成になっている。 - 研究テーマから考察に至るまで，文献が適切に使われている。
	独 創 性	- 論文内容が独創的で，新しい知見が論理的に示されている。 - 未発表の研究である。
	将来展望	本研究から導き出せる今後の研究発展の方向性を示している。
	論文体裁	- 決められた形式に沿って書かれている（論文枚数，フォント，文字数，文献記載等）。 - 誤字，脱字，不適切な文章表現がない。
	倫 理 的 配 慮	- 研究目的・テーマに倫理的な問題がない。 - 研究方法，対象の選定，記述に倫理的配慮が十分払われている。 - 他者の知的所有権を侵害するような記述がない。 - 倫理的配慮に関する内容が適切に記述されている。 - 必要に応じて，本学の研究倫理審査委員会の承認を得たことが記載されている。
研 究 過 程	テ ー マ	研究テーマの表現が適切である（英語表記を含む）。
	研究目的	- 研究目的が明確である。 - 看護に対する意義が述べられている。 - 研究目的を導く問題現象の全体像が述べられており，その中で本研究の位置づけが示されている。 - 適切な文献レビューがなされ，そこから導き出された目的である。
	研究方法	- 研究の枠組み，方法論が十分検討され，適切に用いられている。 - 研究方法が明確かつ具体的に述べられている。
	結 果	- 研究目的に沿ったまとめ方がなされており，記述方法が適切である。 - 分かりやすい方法で結果を提示している（図・表）。
	考 察 と 結 論	- 得られた結果が適切に分析されており，結果の解釈に矛盾や飛躍がない。 - 得られた結果に基づき，研究目的に沿った論理展開ができています。 - 本研究の限界を認識し，限界と対処が述べられている。 - 結論が簡潔明瞭な表現で適切に記されている。
口頭試問		- 研究内容を分かりやすく説明できる。 - 質疑に的確に対応できる。

看護学専攻博士学位論文審査基準

看護学専攻（博士後期課程）における博士学位論文は、以下の各項目について、論文審査および最終試験を行うことによって評価し、その結果を総合的に判断して合否を決定する。

1. 研究テーマの設定が適切であり、研究方法が妥当なものであるか。
2. 当該研究がその領域の理論的見地または実証的見地から見て、博士として独自の価値を有するものとなっているか。
3. 論文の記述（序論、方法、結果、考察・将来展望など）が適切であり、結論に至る論理構成が明瞭で妥当であるか。
4. 結論に至る論理構成を支える図、表、文献の引用などが十分かつ適切であるか。
5. 当該研究領域について博士として必要な専門的知識を有し、問題を的確に把握して解明する能力を身につけているか。
6. 外国語文献読解など、研究を遂行する上で必要となる外国語能力が、博士として十分なレベルに達しているか。